

平成18年11月27日設置

岡崎市交通政策会議

フィーダー系統 平成26年6月27日確保維持計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

第6次 岡崎市総合計画

- 将来像：人・水・緑が輝く 活気に満ちた 美しい都市 岡崎
- 計画期間：基本構想 12年(平成32年度目標)
基本計画 6年(前期：平成26年度) (後期：平成32年度)

岡崎市都市計画 マスタープラン

- 基本理念：快適な暮らしと自然・歴史資源が調和した風格ある都市
- 目標年次：平成32年度

岡崎市中心市街 地活性化ビジョン

- 基本理念：魅力的な歴史・文化・暮らしに会うまち
- 計画期間：平成23～32年度

岡崎市 総合交通政策

【基本理念】
人、まち、環境 きらり。岡崎の交通
まちづくり

【基本目標と基本方針】
I 人にやさしく安全安心な交通体系の整備
・だれもが利用しやすい交通環境の整備
・安全・安心な地区交通環境の形成
・良好な歩行者・自転車環境の整備

II まちの魅力を高め活気づける交通体系の整備
・都心地域へのアクセスの向上
・交通拠点を中心とした地域交通環境の形成
・中心市街地のにぎわいを高める交通環境の形成

III 環境にやさしい交通体系の整備
・交通における環境対策の推進
・市民・企業の環境に配慮した交通への参画

IV 交流を促進する円滑で快適な交通体系の整備
・鉄道輸送力の強化
・自動車交通の円滑化
・都市間ネットワークの整備

公共交通	自動車	自転車	歩行者
・鉄道とバスが連携した公共交通網の整備 ・高齢者等に優しいサービスの提供 ・市内拠点間を連絡するバスの強化 ・まちなかの回遊性を高めるバス運行	・高速道路に連絡する道路の整備 ・地域内の都市計画道路の整備 ・交通渋滞緩和策の実施 ・公共交通に配慮した道路の整備	・自転車道ネットワークの整備 ・鉄道やバス利用のための駐輪場の整備 ・レンタサイクルなどまちなかの移動を支援するシステムの提供	・交通バリアフリー事業による歩行空間の整備 ・中心市街地の回遊性を高める歩道の整備 ・郊外の歩行の安全性を確保する歩道の整備

都心地域
都市活動全般を支える基盤として、都心部の自動車交通量を抑制する交通需要マネジメントを行うとともに、商業施策や観光施策との連携により回遊性の向上を図り、都心部の魅力、活力を創出する。
駅等の交通施設の強化、乗継ぎの円滑化のほか、バス、自転車、徒歩等、交通利便性を面的に高める施策を推進する。

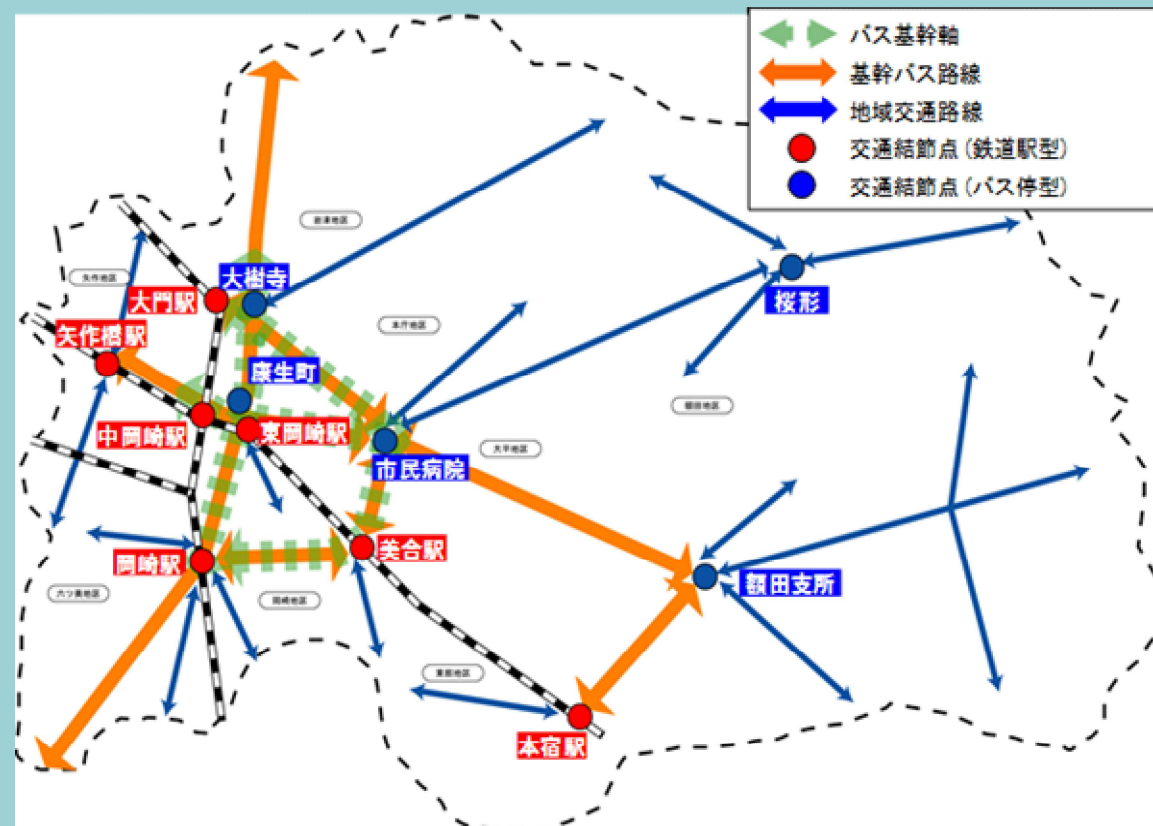
郊外地域
駅や周辺地区の多機能化により地域活力を高めていくため、交通面では、駅や周辺地区の安全性・快適性などの環境改善や居住地等から駅までの円滑で快適な移動を促進していく。
放射・環状のバス路線体系を形成し、多方向へのモビリティを確保するとともに、鉄道や他の手段の乗換機能を高める施策を展開する。

中山間地域
中山間地域における道路での移動の円滑性を確保していくとともに、生活の足としての交通を確保するため、様々な工夫により、最寄りの鉄道駅等地域拠点へのアクセスを確保していく施策を展開する。

◎総合交通政策で目指す公共交通ネットワーク

- 公共交通ネットワークは、鉄道を広域的な基軸とし、バスがこれを補完して市域を面的にカバーする公共交通体系の構築を目指す。
- バス等のネットワークは、既存バス路線と連携した持続可能なバスネットワークの構築に向けて、交通結節点や地域拠点を連絡する「基幹軸」(交通拠点間バス)と、交通結節点を中心に地域に応じた手法で展開する「地域内交通」及びそれぞれの路線が接続する「交通結節点」の整備を進め、まちづくりなどの関連計画等と連携した公共交通ネットワークの構築を目指す。

◎公共交通ネットワークイメージ



◎バス基幹軸について

バス基幹軸	区間
南北軸	奥殿陣屋～大樹寺～東岡崎駅～岡崎駅～六ツ美支所/本宿駅～額田支所
東西軸	矢作橋駅～康生町～市民病院/市民病院～額田支所
環状軸	大門駅～大樹寺～市民病院/市民病院～美合駅～岡崎駅

②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

◎平成26年度までの取組の概要と取組に至るまでの検討プロセス

基幹バスネットワークの整備

◆おかざきエクスプレス(岡崎駅・市民病院線)(H20年度～)

バス基幹軸強化として、交通拠点・中心市街地・公共施設間を結ぶ快速バスの実証運行(H20～21)を行い、平成22年度から本格運行へ移行しています。

◆矢作・市民病院線 ◆額田支所・市民病院線 ◆大門駅・市民病院線 (H20年度～)

全市的な基幹バスネットワークを整備するため、これまで系統がない、あるいはサービス水準が低い市民病院を結節点とする3ルートで実証運行を行い、平成23年度から本格運行に移行しています。

地域交通の整備

◆乗合タクシー(H20年度～)

交通空白・不便地域で、地域の特性に合った持続可能な生活交通を確保するため、住民が主体となって運行計画や利用促進策を検討し、地域の交通拠点・生活拠点へアクセスする乗合タクシー等の実証運行を実施しています。旧額田地域で実証運行を行い、平成23年度から本格運行に移行しています。

平成26年10月には地域協議会と検討の上、利用状況に合わせた運行の見直しを行いました。

◆コミュニティバス「まちバス」(H19年度～)

中心地市街地における回遊性、賑わいの創出を目的に、平成19年7月から、コミュニティバス「まちバス」を運行しています。

中心市街地の商業・公共・観光施設と交通結節点や周辺住宅地を結び、1日何回乗っても200円。沿線140店舗(H26年度)の協力のもと、まちバスに乗りし買い物された方に、次回の乗車券をサービスしています。

バス利用環境の整備

◆系統番号の導入 (H20年度)

交通事業者と連携し、市内全バス路線・乗合タクシーに行き先別の系統番号を導入しています。

◆バスロケーションシステムの導入(H22年度)

市内名鉄バス・まちバス路線において、バス停(30箇所)や携帯電話で、バスの発車案内や待ち時間などがわかるバスロケーションシステムを導入しています。

◆バス待合環境の整備(H22年度)

都心地域の利用者の多いバス停において、上屋(13箇所)やベンチ(23箇所)を整備しています。

◆ICカードの導入(H22年度)

鉄道と共通利用できるICカード(manaca)を導入(まちバス、名鉄バス路線)しています。



既存バス路線の改善

◆市内補助路線

平成19年に交通事業者から市内14路線(26系統・162バス停)の廃止意向が示されました。市では補助制度を見直し、運行経費の赤字補てんに加え、地域や市の意向を反映したバス路線に改善を行うことを前提とした補助内容とし、運行事業者と協議して持続可能なバス路線への改善を進めています。

これまでに、矢作地区(H21年)、東部地区(H22年)等において見直しを行っています。

公共交通利用の促進

◆モビリティマネジメントの実施(H20年度～)

○秋の市民まつりの2日間を「公共交通に親しむ日」として、公共交通利用促進キャンペーンを実施しています。

○市内事業所等を対象に「エコ通勤トライアル」等のモビリティマネジメントを実施しました。(H21～22年度)

◆公共交通マップの作成(H20年度～)

市内バス路線図や主要駅発着のバス運行情報に加え、タクシー情報、バスロケーションシステムに関する情報を掲載した公共交通マップ(改訂版)を作成しています。

②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

◎平成27年度の取組の概要

- ・額田地域内のフィーダー交通であるコミュニティバス等を1年間計画通りに運行している。
- ・各地域協議会においてコミュニティバス等の利用状況を報告し、利用促進を図るため地域住民と協議を行った。
- ・「公共交通に親しむ日」等でバス利用を促進するため、バス事業者による乗り方教室の開催や営業所の見学等を開催した。

◎取組に至るまでの検討プロセス

1 各地域協議会が主体となって地区線ごとの利用促進を推進している。

(1) 下山地区線(ささゆりバス)

- ・下山地区線を活用し市街地で老人クラブの活動を行っている。
- ・高校生がバスから自転車に乗り換えて学校へ通えるように市街地のバス停付近に駐輪場を設けた。
- ・高校生の利用が減る夏休み期間中は小学生を対象にしたスタンプカード制度の取組を行った。

(2) 形埜地区線(乙川バス)

- ・高齢者定期券購入費の1割を助成する取組は継続し実施している。
- ・利用者ごとにマイ時刻表を作成し配付した。

(3) 宮崎地区線(のってこバス)

- ・バス利用を促すチラシを作成し、地域の住民へ配付した。

(4) 豊富・夏山地区線(ほたるバス)

- ・ルート上のバス停のない地域に新たな需要を喚起するため、新しいバス停の設置に向けた協議を行っている。

2、バス事業者と連携し、公共交通に親しむ日を開催しバス利用促進を実施した。

- ・バス路線の小学生運賃無料化
- ・パーク&バスライドの実施
- ・バスの乗り方教室
- ・小学生以下を対象としたバスの運転手体験
- ・名鉄バス岡崎営業所見学会の開催



乗り方教室の様子

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

◎バス路線全体の評価

委託路線及び補助路線で年間利用者数が減少。		収支率50%未満の路線が約7割。		バス補助金が増加。			
対象バス路線	年間利用者数 (H26/H25)	対象バス路線	収支率50%未満 の割合(H26)	対象バス路線	H24	H25	H26
岡崎市バス路線全体	約99.4%	委託・補助路線	約74.2%	委託・ 補助路線補助額	約2.9億円	約3.1億円	約3.2億円
委託路線	約68.0%(※1)						
補助路線	約97.6%						
非補助路線	約100.0%						

(※1)額田支所市民病院線は
H26年4月に委託路線から補助路線に変更

◎平成27年度の取組に対する評価

- 地域の取り組み
 - 1 バス利用を促すチラシの配付や地域協議会でのバス利用の周知を行ったが、全体的な利用人数の増加には繋がらなかった。
 - 2 地域協議会の会議を重ねることで、利用促進策等について地域から活発な意見が出るようになった。
 - 3 利用人数が減少傾向にあった下山地区線では、新たな利用促進を実施し以前と同水準にまで利用人数を回復させることができた。
- 各路線の利用者数
 - 1 平成27年度の各路線利用者数の目標値に対し、額田支所市民病院線、下山地区線、宮崎地区線、形埜地区線は達成できない見込みであるが、豊富・夏山地区線は達成できる見込みである。
※目標値設定後に運行の見直しを行ったため、宮崎地区線や形埜地区線等は目標値に大きく及ばなかった。
 - 2 曜日や時間帯によって利用がほとんどされていない区間がある。
- 各路線の1便当たり平均人数
 - 1 額田支所市民病院線以外はどの路線も1便当たり平均人数が増加しており、運行の見直しによって効率的な利用に改善される見込みとなった。

各路線の利用者数と1便当たりの平均人数等

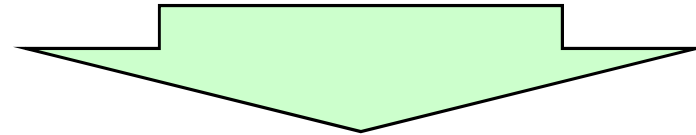
	H25年度 利用実績(人) (H25.4～H26.3)	H27年度 目標値(人) (H27.4～28.3)	H27年度 利用者見込(人) (H27.4～28.3)	評価	1便当たり 平均人数(人) (H26.4～H27.3)	1便当たり 平均人数見込(人) (H27.4～H28.3)	比較	1運行当たり1.0人 未満の系統(人/回) (H26.10～H27.9)
額田支所市民病院線	8,445	8,468	7,166	未達成	1.75	1.68	減少	該当なし
下山地区線	4,665	4,677	4,077	未達成	2.84	3.40	増加	該当なし
宮崎地区線	608	609	443	未達成	0.24	1.16	増加	該当なし
形埜地区線	1,157	1,160	875	未達成	1.11	1.13	増加	切山・小久田コース 0.3 毛呂・井沢コースB 0.5
豊富・夏山地区線	461	462	469	達成	0.82	1.91	増加	該当なし

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

◎バス路線全体の課題とその対応

「課題」

- 委託・補助路線の補助金額は増大
- バス路線全体の年間利用人数は微減し、内訳でみると委託路線及び補助路線の年間利用人数が減少



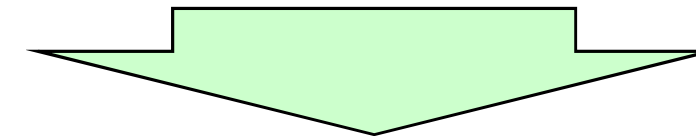
「対応」

- 持続可能なバスネットワークの確保・維持の検討
平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画への反映を踏まえた新たなバスネットワークのあり方等の検討
- 公共交通機関の利用の周知
市のホームページでの周知や公共交通マップの配布に加え、地域住民検討会や乗り方教室等の開催等の実施

◎平成27年度の取組に対する課題とその対応

「課題」

- 1便当たりの平均利用人数は増加したが、バス利用者数は減少
- 曜日や時間帯によって利用がほとんどされていない区間の存在



「対応」

- 利用促進の検討及び実施
下山地区線で実施している月に1回の老人クラブ活動のためのバス利用等、継続的な利用促進策の検討及び利用促進の実施
- 利用目的にあった運行内容の見直し
病院での診察やお店での買物等行き先での用事を済ます時間を考慮した運行ダイヤ等、利便性のある運行内容について、アンケートや地域協議会等で地域の意見を聴取し、改善を図る

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

◎各地域協議会の検討、協議及び額田地域生活協議会での情報共有

額田地域の各地域協議会は、定期的に協議会を開催し区内を運行するコミュニティバス等の利用状況の確認や路線の確保維持のための検討及び利用促進に関する協議等を行っている。

また、各地域協議会の代表者が集まり額田地域生活協議会を開催し、各路線の利用状況や各地域で聴取したバス利用についての意見等の情報共有を行っている。



地域協議会の様子

◎交通事業者との情報共有

市内を運行するバス事業者と市担当者との会議を定期的に開催し、バス交通に関する課題や改善点について情報共有を行っている。このような連携を図ることにより、より良い生活交通ネットワークの構築に努めている。